

教師主導の

子どもが主役の

# 「教わる」授業から「学びとる」授業へ

急速に社会が変化し予測困難な時代の中で、学校教育には、子どもたちが様々な変化に向き合い、周囲と協働して課題を解決していくことや新たな価値を生み出すことが求められています。

こうした状況を踏まえ、令和2年度（中学校は令和3年度）から、新しい学習指導要領による学習が始まります。教科書が新しくなり、小学校3年生から本格的に外国語活動が始まり、5年生から新たに外国語科が始まります。また、新しくプログラミング教育も始まります。

学習の評価は、次の3観点で行われます。

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

また、新しい学習指導要領では、学習の基盤となる力として、次の3つが示されています。

言語能力

情報活用能力

問題発見・解決能力

そこで、熊本市では、この3つの力を育成するため、学校の授業を教師主導の授業（子どもが教わる授業）から、子ども主体の授業（子ども自ら学びとる授業）へ、転換していきます。子どもたちが「教わる」から「学びとる」という意識をもち、「自分たちで課題を見つけて解決していく学習」「友達と対話しながら問題を解決していく学習」等、子ども主体の授業を目指します。

このようなことを踏まえ、熊本市では、次のような取組をさらに充実させていきます。

- ・タブレットの活用
- ・ALTの配置の充実
- ・協働して課題を解決していく授業の推進 など

そのため、教師は、教えることに加え、子ども一人一人の学びが深まるようにコーディネートする役割を担います。



タブレットを活用した学習



ALTとの対話による学習



子どもが説明する学習



自分の考えを伝え合う学習

学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、子どもの学びが進化します。

